

第4学年社会科学学習指導案

指導者 一関市立南小学校
教諭 藤森考人

1 単元名 7 昔から今へと続くまちづくり～用水路を開く～

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領第4学年の内容(5)のウ「地域の発展に尽くした先人の具体例」を受けて設定されたものである。地域の発展に対する先人の願いや工夫・努力、苦心、地域の人々の生活が向上したことを具体的に調べる単元である。一関市の先人・偉人は数多く存在し、その業績は偉大なものである。今回取り上げた照井太郎高春も地域の発展に尽くした先人の一人である。

照井太郎高春は、今から約850年前、水不足に悩む村人たちを助けたい「米作りをささえたい」という地域の人々への熱い思いから照井堰作りに立ちあがった。残念ながら高春は工事半ばでなくなったが、その後も様々な人々の手で開発が続けられ、照井堰のおかげで多くの水田や畑ができ、地域の人々の生活がよりよいものになった。今では生活用水や防火用水、水力発電として活用されるまでになった。こうした照井太郎高春の業績、照井堰の様子を教材として扱うことは、地域の発展に尽くした先人について学習する教材に適しているといえる。

照井堰は、南小学区に大きく関わっているわけではない。しかし、同じ一関市地域に関する内容であること、学区より比較的近くに照井堰があること、今年度より一関市の副読本に詳しく取りあげられたこと、先人の業績が子どもたちにとって比較的分かりやすいことからこの教材を学習するに至った。

(2) 児童について

4年B組の児童にとって、地域の発展に尽くした先人について学習することは本単元が初となる。これまでは、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上を担っている人々の働きについて学習を深めてきた。具体的には、警察署、消防署、浄水場、清掃センターの働きについて、問題解決的な学習過程を通して課題を設定し、資料を基に調べる活動を行ってきた。学習形態は、一斉・グループ・ペアなど様々な形で調べたり発表したりしながら進めてきた。どの単元でも自分の考えをもち意欲的に発言し、ノートへのまとめも丁寧に行うことができた。ただし、資料を適切に読み取ることが単元のテスト等で低く出ており大きな課題となってきた。また、課題に対して生活経験や既習内容を基に予想したり、資料を正しく読み取り社会的事象を考えたりする力はついてきているが、さらに追究したり、自分の考えで表現したりする力は十分とはいえない。

昔の暮らしについての学習は、3年生「さぐってみよう昔の暮らし」において受け継がれる行事や昔の道具とくらしなどについて学んでいる。その学習をふまえ、先人の願いや努力を意欲的に調べることができるように指導したい。

(3) 指導について

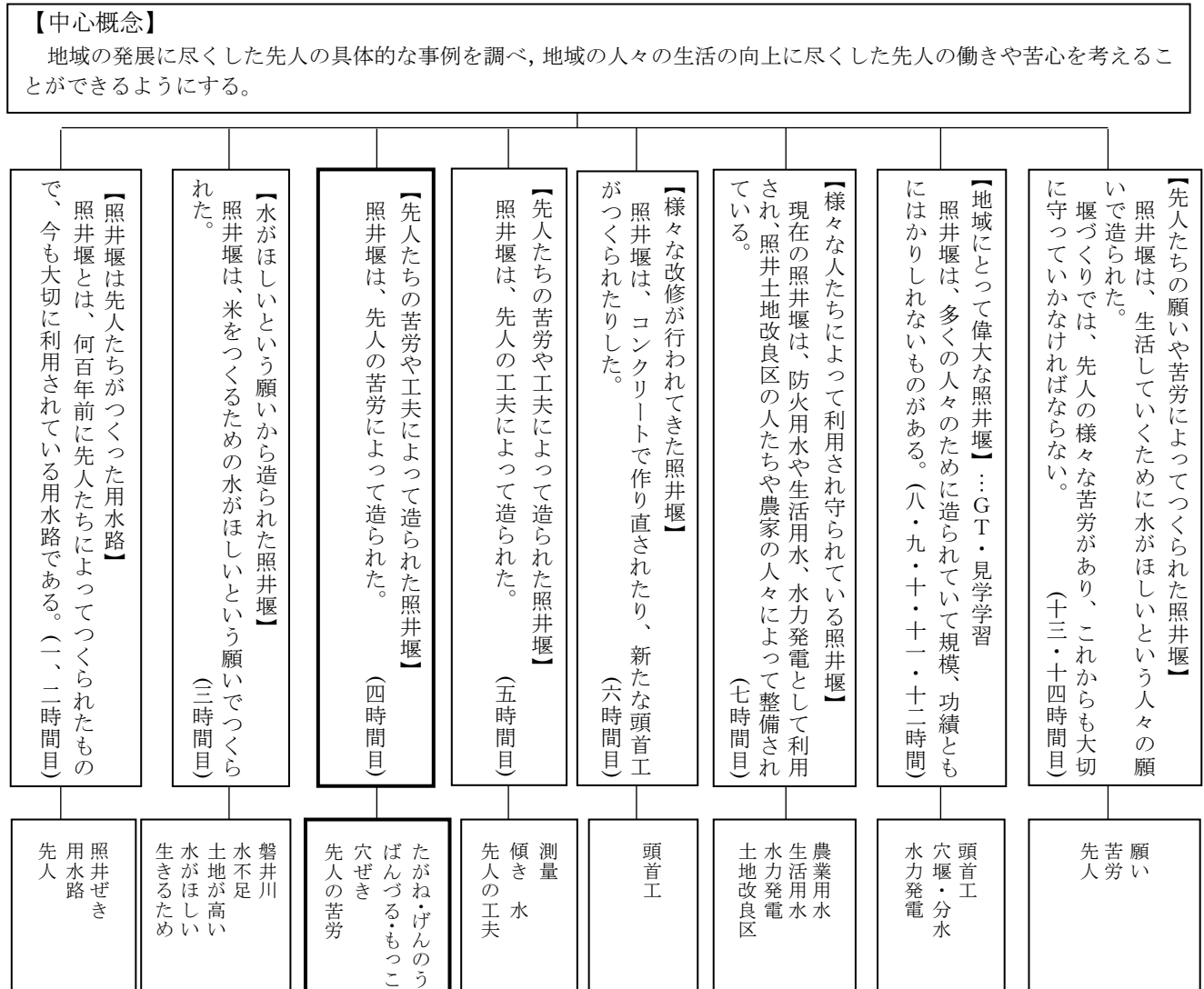
教科書の内容とは別に、一関市の小学校社会科副読本「わたしたちの一関市」をもとに、「照井堰」について教材を構想する。また、単元を通して、問題解決的な学習過程を重視した指導を行う。児童が自分なりの考えをもちながら主体的に課題解決していく中で、資料活用及び、思考・判断・表現の能力を伸ばしていきたい。

単元の導入にあたっては「照井堰」が地域に身近なものであること、昔と今の人々が生きていく中で重要なものであったことを感じさせるようにしたい。そして、その後の追究意欲につなげていきたい。

展開場面では、「昔の人々の願い」「先人たちの苦労と努力」「照井堰の歴史」という観点で追究活動を行う。特に、人々の願いと苦労については、絵・図・写真・実物などの様々な資料から追究できるように手立てをとっていく。「水がほしい」「米作りをしたい」という願い、穴堰を初め、用水路をつくることの苦労や努力などを調べさせたり考えさせたりする。資料が十分とはいえないため補助資料を用意する。また、体験活動を行うことで作業の大変さを想像させ、見学活動を行うことで照井堰を造ったことの偉大さを感じ取らせていきたい。

単元の終末では学習したことや自分の考えをリーフレットにまとめる活動を行う。先人に対する敬意と感謝をもたせたい。

3 単元の知識の構造図



4 単元の目標

(1) 照井堰工事に関わった先人や人々の苦勞や願い、照井堰工事の様子について、意欲的に調べようとしている。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

(2) 照井堰が造られた願いや苦勞について自分の考えをまとめることができる。

【社会的な思考・判断・表現】

(3) 照井堰の工事の様子や工事を行った人々の思いについて、調べたりまとめたりすることができる。

【資料活用の技能】

(4) 照井堰がどのような願いから造られたか、現在の照井堰の様子や人々の思いを理解することができる。

【社会的事象についての知識・理解】




5 単元の指導計画

時	目 標	学習活動	評価規準と評価方法
1・2	照井堰の様子からどうやって用水路をひいたか関心をもつことができる。 先人の工夫や努力について調べる学習の見通しをもつことができる。	照井堰とは何かを知り、気づいたことや疑問に思ったことなどを話し合う。 考えたことを基に調べる視点を整理し、学習計画を設定し、単元の見通しをもつ。 (調べる視点) 照井堰を作った理由 照井堰工事の様子 照井堰の今の様子	照井堰について意欲的に調べようとしている。 【関心・意欲・態度】 (発言・ノート) 照井堰がつけられた願いや工事の様子などの観点から、先人の工夫や努力について調べる学習計画を考えている。 【思考・判断・表現】(ノート)
3	照井堰は、どんな願いでつけられたのかとらえることができる。	資料から、水が引けなかったわけや多くの村の人々の願い、照井太郎高春の思いについて調べる。	照井堰ができた理由について、人々が大きな川から水を引きたいという願いや照井太郎高春が人々を助けたいという考えがあったことについて理解している。 【知識・理解】(ノート)
4 (本時)	照井堰工事での苦勞を調べることができる。	資料をもとに工事の様子を調べたり、実際に道具を使ったりすることで、苦勞について考える。	照井堰工事の苦勞について、使われた道具や穴堰の様子と関連付けて考えている。 【思考・判断・表現】 (発言・ノート)
5	照井堰工事での工夫を調べることができる。	資料をもとに工事の様子を調べたり、実際に道具を使ったりすることで、工夫について考える。	照井堰工事の工夫について、測量の方法や工事の様子と関連付けて考えている。 【思考・判断・表現】 (発言・ノート)
6	照井堰は、その後、どのように変わっていったか調べることができる。	年表や写真から、照井堰の工事が続けられていることを読み取る。	資料から、およそ850年間にわたって照井堰の工事が続けられていることをとらえている。 【技能】(ノート)
7	照井堰を守るためにどのような取り組みが行われているか調べることができる。	写真や資料をもとに現在の照井堰の様子や人々の気持ちについて調べる。	写真や資料を基に現在の照井堰の様子や人々の気持ちについて理解している。 【知識・理解】(ノート)
8	照井堰に関心をもって見学の準備ができる。	見学の仕方や内容をつかむ。 これまでの学習を基に見学の計画を立てる。	これまでの学習を基に見学の計画を意欲的に立てている。 【関心・意欲・態度】 (見学のしおり)
9	照井堰についてさらに詳しく調べることができる。	ゲストティーチャーである照井堰土地改良区の方の話を聞き、学習してきたことの確認や新たな発見をノートにまとめる。	これまでの学習を基に、照井堰について確かめたり新たな知識を身に付けたりしようとしている。 【関心・意欲・態度】(ノート)
10 12	照井堰の様子に関心をもって見学ができる。	見学する。 見学場所…頭首工・分水場・水力発電所・穴堰	照井堰の様子に関心をもち、先人の働きについて意欲的に調べようとしている。 【関心・意欲・態度】 (見学ノート・発言)

13 ・ 14	照井堰リーフレットを作ることができる。	見学学習を振り返り、分かったことを整理する。 学習したことを基に照井堰の大きさが伝わるリーフレットを作る。	照井堰工事に関わった当時の人々の願いや努力についてリーフレットにまとめている。 【技能】(リーフレット)
---------------	---------------------	--	---

6 資料活用構想図

4年「昔から今へと続くまちづくり～用水路を開く～」

段階 時	さがす・見つける	比較・関連・総合する 表現・説明する
1 ・ 2	①イオンの近くを流れる照井堰【写真】 堰が米作りに必要な水を運ぶものであることを確かめる。 照井堰が一関のことで身近なものであることを確認する。	②照井堰の様子【ビデオ】【写真】 照井堰の今の様子を読み取る。 水田の近くには、必ず用水路があることを理解する。 ③照井堰の流れ【地図】【写真】 照井堰が広い範囲に渡っていることや堰の長さを確認する。 「照井堰は、どうしてつくられたのだろう」「照井堰は、どうやってつくられたのだろう」「今と昔の照井堰のちがいはなんだろう」という学習問題を設定する。
3	④照井太郎高春【想像図】 ⑤照井神社にある五輪塔【写真】 神社として残されるほど、人々から大切にされていたことを理解する。	①照井堰ができる前までの村の様子【想像図】 水がなく米作りができないことを想像する。 ②磐井川下流の村【絵】 多くの村があったことを確認する。 用水路がなかったときはどのように過ごしていたかを想像する。 ③土地の様子を表す図【図】 磐井川から水をひけない高さにあることを理解する。
4 (本時)	①穴の様子【写真】 穴を掘った事実を理解させ、本時の調べ学習の問題を追究する糸口とする。 ②照井堰の穴堰の石【実物】 石の重さから学習問題を想起させる。調べ学習の意欲付けを行う。 ③照井堰の穴堰の小石【実物】 石の固さからほることの大変さを想起させる。	④道具(たがね・げんのう・ばんづる・もっこ)【写真】 写真を提示して、使い方を想像する。  ⑥穴の形をした掲示(高さ1.4m 横1mの紙)【図】 大きさを実感させ、低い姿勢の重労働であったことを想像させる。  ⑦「穴堰をつくる」(資料集) ⑧「穴口をほる村人たちと使われた道具・照井堰の歴史」【絵・文書資料】 実物や写真などで予想したものを検証する。 
5	①測量の様子(児童がかいた紙しばい)【写真】	②測量の道具(提灯・水・たらい)【実物】 測量の仕方を理解し、先人の工夫にふれる。 ③用水路をつくるために【資料集】 測量の苦労と工夫を想像する。
6	①磐井川にある取り入れ口(新大ヰ切頭首工)【写真】	②照井堰のあゆみ【年表】 ③土ぼりの水路・コンクリートの水路【写真】
7	①農業用水路として利用【写真】 照井堰の水が主に水田のために利用されてきたことを想起する。	②防火用水路として利用【写真】 防火のために利用されていることを理解する。 ③生活用水として利用【写真】 作業用具や野菜などの水洗いにも利用されていることを理解する。 ④発電として利用【写真・ビデオ】 水力発電としてエネルギーにも利用されていることを理解する。 ⑤水路の清そう【写真】 照井土地改良区では、水路が壊れないように、また使いやすいように責任をもって管理している。 ⑥用水路の周りの草かり【写真】 農家の人々は、水路が壊れないように、また使いやすいように協力しながら環境を整備している。
8	①照井堰の全体図 照井堰の全体図をもとに、見学のコースを確認する。	②本単元でまとめてきたノート これまでの学習を振り返りながら、見学の予定を立てる。 分かったこと、新たに知りたいことを確認し、ゲストティーチャーへの質問を用意したり、見学の準備をしたりする。
9	①照井土地改良区のパンフレット パンフレットを通して照井堰の様子や歴史を調べる。	②ゲストティーチャーの話 これまで学習したことを確認する。 新たに分かったことをノートにまとめる。
10 ・ 12	①大ヰ切頭首工 ②樋の沢隧道 ③分水工 ④荻野発電所	①見学 見学を通して、照井堰の様子や歴史を調べる。 これまで学習したことを確認する。 新たにわかったことをノートにまとめる。

13	①本単元でまとめてきたノート	④リーフレットに学習して分かったことと自分の考えをまとめる
・	②見学のしおり	
14	③本単元で学習した学習資料	

7 本時の指導

(1) 目標

- ・照井堰が、どのようにしてつくられたのかを調べ、照井堰工事における先人の苦労や工夫について考えることができる。

(2) 評価規準

観点	評価規準
社会的事象についての思考・判断・表現	照井堰工事の苦労や工夫について、使われた道具や穴堰の様子と関連付けて考えている。

(3) 本時の展開

社会的な見方や考え方を身に付けさせる資料活用

(○資料提示の工夫 □複数の資料を比較・関連・総合させる工夫 ◇資料をもとに考えを表現させる工夫)

段階	学習内容と学習活動 (・ 指導上の留意点)	社会的な見方や考え方を身に付けさせる資料活用
問題の把握 (8分)	<p>1 前時までの内容確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生きていくために水がほしい」という人々の願いによって、照井堰が造られたことを確認する。 ・穴堰の長さ (850m) や工事の進み具合の悪さ (1日1～2m) の事実や石の重さや固さから工事の大変さを想像する。 ・工事の大変を想起させながら、児童の言葉から学習問題を設定する。 <p>2 学習問題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>照井ぜき工事には、どのような苦労や工夫があったのだろうか。</p> </div>	<p>①穴堰の様子(写真)</p> <p>②穴堰を掘った石・大(実物)</p> <p>③穴堰を掘った石・小(実物)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②穴堰を掘った石・大(実物) 実物を見たり、触ったりすることで石の固さや重さを実感する。</p> <p>○「なぜ穴堰工事に時間がかかり、どんな苦労や工夫があったのか」その理由を考えさせる。</p> </div>
問題の追究 (30分)	<p>3 予想の発表</p> <p>(1) 資料や体験を基に照井堰工事の苦労を想像し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴堰の長さや石の重さ、体験活動などから工事の苦労を想像する。 ・工事の苦労を調べる方法を確認する。 <p>4 学習問題の追究</p> <p>(1) 写真や実物から照井堰工事の苦労を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たがね・げんのう・ばんづる・もっこの写真から使い方を予想する。 ・資料集から道具の名前と使い方を調べる。 ・道具の重さや石の固さ、「もっこ」の疑似体験などから工事の苦労を想像する。 ・穴の図から、狭い場所で低い姿勢で大変な作業だったことを想像する。 <p>(2) 文章資料から照井堰工事の苦労について検証をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料集と絵・文章資料を使って、道具の使い方を調べる。 ・資料集から工事の様子を調べ、手作業で命がけの工事をしていたことを捉えさせる。 	<p>④道具(たがね・げんのう・ばんづる・もっこ)(写真)</p> <p>⑤道具(たがね・げんのう・ばんづる・もっこ)(実物)</p> <p>⑥穴の形をした掲示(高さ1.4m 横1mの模型)(図)</p> <p>⑦「穴堰をつくる」(資料集)</p> <p>⑧「穴口をほる村人たちと使われた道具・照井堰の歴史」(絵・文書資料)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑤道具(もっこ)(実物)</p> <p>⑥穴の形をした掲示(図) 実物を使って動作化する。穴堰の大きさをイメージする。</p> <p>□動作化で道具の重さを実感し、穴の大きさをイメージすることで作業の大変さを気づかせる。</p> <p>◇実物と図を関連付けることで、先人の苦労についての自分の考えを表現させる</p> </div>
まとめ (7分)	<p>5 学習問題のまとめ</p> <p>(1) 照井堰工事の苦労や工夫についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで調べた資料を関連でづけながら、学習したことや言葉を使って自分の考えをまとめ、発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦ 照井ぜき工事の苦労には、手作業で固い岩をけずったことや長い道のりをほったことなどがあった。</p> </div> <p>(2) 自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな発見や自分の考えを書かせる。 <p>【記入例】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>重い道具を使って、長い道のりを作業することはとても大変だったと思う。先人のおかげでたくさんのお米がとれるのだから、感謝したい。</p> </div>	<p>【評価】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>使用した道具の重さや作業距離、労働の大変さなどから、先人の苦労について考えているか。(社会的事象についての思考・判断・表現)</p> </div>

8 板書計画

10/30(金) P114, 115

㊦ 照井堰工事には、どのような苦
労があったのだろう。

約 8 5 0 m

1 日で 1 ~ 2 m

予想

- ・岩が固くてほれない。
- ・道具を使って手作業で

固い岩



A たがね
岩をくだく



B げんのう
たがねをたたく



C ばんづる
岩をけずる



D もっこ
石や土を運ぶ

照井堰の苦勞

- ・長いきより 8 5 0 m
- ・重い道具
- ・手作業
- ・固い岩 (1 日 1 ~ 2 m)
- ・せまい
- ・命がけ

㊦ 照井堰工事には、手作業で固
い岩をけずったり長い道のりを
ほったり 多くの苦勞があった。